

平成30年度 指導方法等の改善計画について〔国語〕

廿日市市立宮内小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

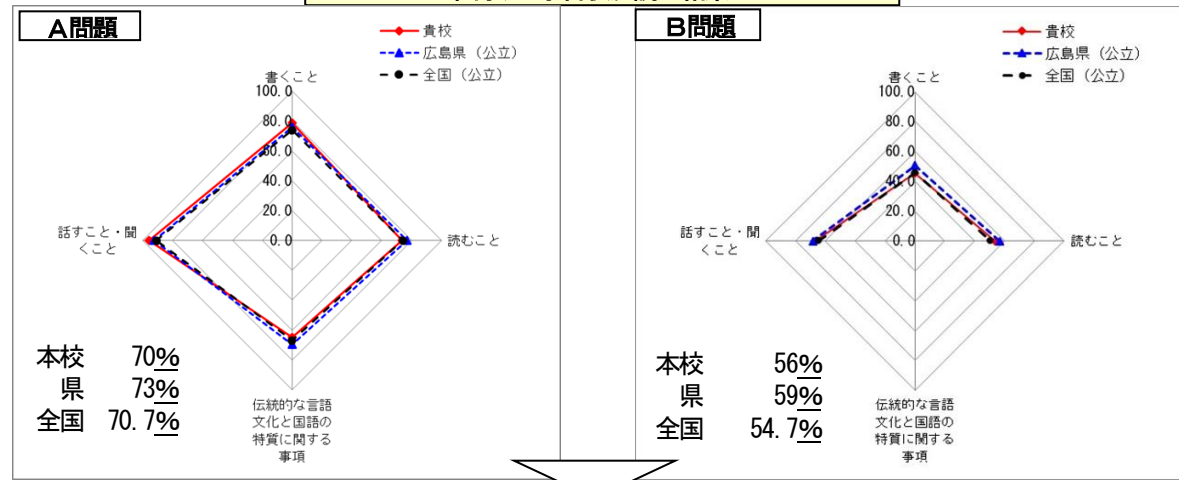
- 問題を読み取る力や「書く力（速さ・意欲）」が十分についていない。
- 漢字やローマ字の既習事項の習熟が不十分である。

【取り組んだ事項】

- 毎時間音読の時間を確保する。国語科以外の時間にも日記・観察・報告文など書くことに慣れさせる。
- 毎時間5分間漢字を学習する時間を設け指導の充実を図る。家庭学習や朝学習でローマ字を書く機会を設け、定着を図る。

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A問題	B問題
本校	70%	56%
県	73%	59%
全国	70.7%	54.7%

全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎A問題 ◇B問題

- ◎ 「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の通過率が低い。「伝統的な～」については、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができていない（正答率49.3%）。また、漢字の正答率が低く、無解答率も県平均・全国平均の2倍以上だった。「読むこと」では、登場人物の心情について、情景描写を基に捉えるが県平均、全国平均に比べ、低い（68.0%）。
- ◇ 「書くこと」の領域の通過率が低い。特に、目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える（56.0%）、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書く（17.3%）、推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える（68.0%）、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく（48.0%）で、正答率が低く、無解答率も高かった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

- ◎ 「読むこと」については、国語科だけでなく、全ての学習において読み方の練習を行うようにする。国語科では音読の時間を確保し読み方の基礎をつくる。教科書や問題文を読む際、「何のために」読むのか目的を明確にした上で、キーワードとなる言葉に印をつけながら読ませるなど工夫させる。
- ◇ 「書くこと」については、短作文を書いたり視写したりして、文章構成、主述の関係などを意識させる。30%未満の児童にも分かるよう、書き方の例を示したり、キーワードの確認を行ったりする。俳句、短歌、手紙文、新聞など、学年の実態に応じて、いろいろな文章を読む機会をつくる。文章を読んで自分の考えを書かせた後、友達と交流させ、さらに自分の考えを深めるような授業を仕組む。いろいろな場面で、手紙を書く機会も設けるようにする。

来年度の目標値

「書くこと」「読むこと」の平均通過率を70%以上にする。

中間検証①(H29.12)

中間検証②(H30.2~3)

最終検証(H30.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	中間検証①(H29.12)			中間検証②(H30.2~3)			最終検証(H30.8)		
			到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	到達目標値	実施後数値	
視写活動を通して、正確に書くことで、文章を書く力を身につける。	全学年	学年目標に達することができる児童の割合	80%以上	86.5%	全校での朝の試写タイム、学年に応じた日記指導、作文メモの活用等の成果が出ている。要点まとめ等の指導も充実させていく。	85%以上	90.1%	目標は達成した。今後、取組を徹底するとともに、学年に応じ、会話文の指導、文章のまとまりを意識すること、説明文の要約等の指導を充実させていく。	90%以上	78.2%	
毎時間、音読練習を続けることで、的確に内容を捉える基礎を身につける。	全学年	物語文・説明文の読解テストの正答率	80%以上	90.5%	毎時間の音読練習、指示語や接続詞等に線を引きながら読ませること等により、成果が出ている。文章の構成を考える指導も充実させていく。	85%以上	92.9%	目標は達成した。キーワードを探しながら読む、序論・本論・結論に分け筆者の主張とその根拠に注目させる、文章構成図をかかせる等の指導を継続していく。	90%以上	81.0%	

平成30年度 指導方法等の改善計画について〔算数〕

廿日市市立宮内小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

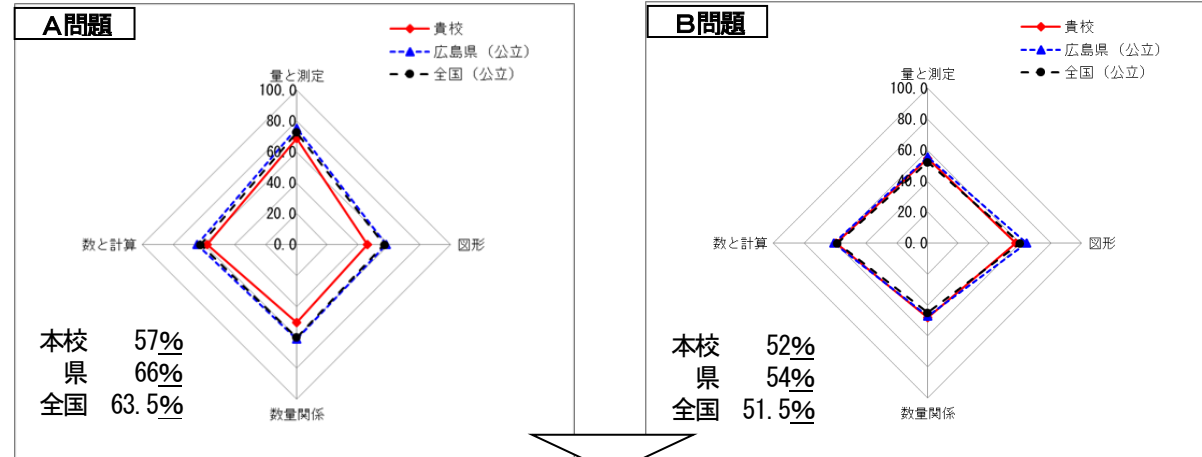
- ひし形の図形の定義を理解していることが不十分であり、図形の性質を扱った問題を論理的に思考することが難しい。
- 三角形の底辺と高さの関係の理解が不十分であり、三角形の定義を理解していない。

【取り組んだ事項】

- 算数的用語を適切に用いた授業を行い、具体物や算数用具を用いた学習活動の充実を図る。
- 図形の性質や公式を覚えるだけでなく、算数用語を使って授業の中で確認しながら課題に取り組ませる。

全国学力・学習状況調査		本年度正答率	
	A問題	B問題	
本校	57%	52%	
県	66%	54%	
全国	63.5%	51.5%	

全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎A問題 ◇B問題

- ◎ 全般的に正答率が全国と広島県を下回った。また、選択式の問題であるにも関わらず、無解答率が全国と県を大きく上回る問題が多かった。14問中、11問目以降は、特に無解答率が多かった。このことから、問題を速く、確実に解くことに課題があることが考えられる。また、基礎的な知識の理解を充実させる必要がある。
- ◇ 敷き詰められた正三角形の中から、条件に合う図形を見つけ出す問題では、正答率が全国と県の平均より10%以上下回った。このことから、様々な図形の定義を十分に理解していないことが分かる。
折り紙で作った輪飾りの規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断する問題では、正答率が62.7%と全国と県の平均を下回り、無解答率は16%と全国と県の2倍以上だった。落ち着いて考えれば難しくはない問題だが、時間的余裕がなかったことが1つの要因として挙げられる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

- ◎ 問題を解く際、時間配分も考える習慣を身につけさせるために、練習問題を解く際には時間設定をするなど工夫する。また、基礎的な知識の充実を図るために、宿題で既習事項の復習が行えるようにする。
- ◇ 既習学年（2年生以上）の問題を解き、図形の定義を正確に理解させる。そのために、図形について定義を用いて説明したり、作図する際には定義を意識させたりするよう、授業展開を工夫する。さらに、図形以外の学習でも、考えなどを説明する際には、既習の算数用語を積極的に用いるよう指導する。

来年度の目標値

「図形」「数量関係」の領域における平均通過率を75%以上にする。

中間検証①(H29.12)

中間検証②(H30.2~3)

最終検証(H30.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	中間検証①(H29.12)			中間検証②(H30.2~3)			最終検証(H30.8)		
			到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	到達目標値	実施後数値	
作図→説明、作図→説明の学習活動を行い、図形の定義をおさえる。	3年生以上	「図形」領域の単元テストの平均通過率	80%	76.2%	定義を理解しても、用具を上手に操作できていないことが多い。作図活動、文と図を使用して説明する授業をより充実させていく。	85%	78.3%	空間に対する理解が低い。授業の具体物を使って説明する時間を確保していく。また、引き続き授業中に作図活動を行い、用具の操作に慣れさせる。	全国学力状況調査の「図形」領域における平均通過率	75%	51%
日常の事象を授業で扱い、割合や表、グラフなどを活用して考察する指導を充実させる。	2年生以上	「数量関係」領域の単元テストの通過率	70%	74.8%	実際に測る等の体験活動、日常の事象との関連付け、図や表、線分図を使って考えさせる等、授業を工夫することにより成果が出てきている。意識して続けていく。	75%	90.7%	成果が表れ、目標を大きく達成することができた。上がり九九、下がり九九を繰り返し唱えさせる、紙テープ等を使って視覚的に捉えさせる、考えを図や表、線分図を使って表していく等の指導を継続する。	全国学力状況調査の「数量関係」領域における平均通過率	75%	46%

平成30年度 指導方法等の改善計画について [理科]

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

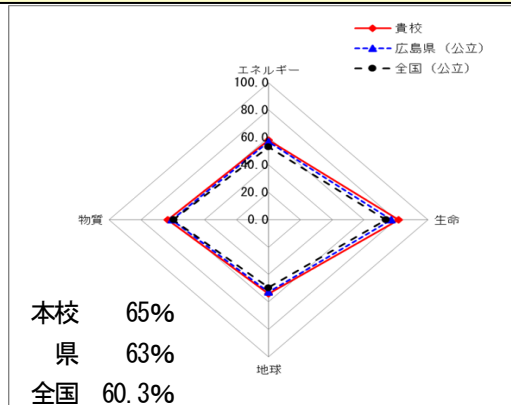
- 直列つなぎの回路のつなぎ方、光電池の特徴、方位磁針の使い方を理解している児童の割合が低い。
- 昆虫の体の特徴を理解している児童の割合が低い。

【取り組んだ事項】

- 実験道具や実験する場所を適切に設定し、実験道具を使いこなせるようにさせる。
- 実験・観察を通して、知識や技能に関する事項を体感、実感させ、実験・観察をした後のまとめ、定義づけをしっかりと行う。

本校	65%
県	63%
全国	60.3%

全国学力・学習状況調査から



重点課題 ◎全国学力・学習状況調査

◎ 「川の流れとそのはたらき」の問題の通過率が17.3%と広島県と全国の平均よりも4%近く下回った。問題は、2本のペットボトルの水を流し川岸に立てられた棒が倒れる様子から川の流れのはたらきを考える実験から出題されている。教科書通りであれば、外側の棒が倒れることになる。実際、本校の児童の多くは「外側の棒だけがけずられる」を選んでる。しかし、本題では、内側の棒も倒れている。このことから、知識に惑わされ、実験結果を素直に受け止められていない様子がうかがえる。「回路」の問題の通過率は57.3%と広島県と全国の平均よりも7%近く下回った。モーターの回転が逆になる回路を選ぶ問題だが、選択肢に乾電池の向きが逆で、導線の色だけが異なるものがあり、22.7%の児童が間違った方を選んでる。

2つの問題に共通している課題として、物事を落ち着いて、正確に見定める観察力が不十分であることが挙げられる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

◎ 実験や観察を行う中で、体験的に理解させた後、図や文章をかくことで理解を深めさせる。このとき、教科書と異なる実験結果が出ることもあるが、ありのままの実験結果を記録させる。そして、なぜうまくいかなかったのかを考える場を設定したり、この後の実験結果と比較から、前の実験が失敗だったこと気付かせたりするなど、指導を工夫する。また、実験や観察をした後のまとめ、定義づけをしっかりと行うとともに、科学的用語を適切に用いた文章を書き、説明するよう指導し、科学的用語の定着を図る。

来年度の目標値

基礎・基本定着状況調査の「物質・エネルギー」「地球」の領域の通過率を80%以上にする。

中間検証①(H29.12)

中間検証②(H30.2~3)

最終検証(H30.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値
実験・観察では、児童一人ひとりが見通しをもち、行う前に予想とその理由を書いてから行う。	3年生以上	実験・観察の前に予想と理由を書くことができる児童	80%	80%	単元の導入を工夫し、予想したことを理由をつけて書く指導をしたことにより、成果が出てきた。書く時間を確保し、指導を続ける。	実験・観察の前に予想と理由を書くことができる児童	85%	87.5%	全校を挙げての取組により、実験前に見通しをもち、意欲的に学習に取り組むことができた。また、書く時間を確保し書き続けることで予想と理由を書くことができるようになってきた。取組を継続していく。	実験・観察の前に予想と理由を書くことができる児童	90%	81.4%
実験・観察を通して体験したことを図や文章で表し、科学的用語を用いて説明する活動を行う。	3年生以上	「物質」「エネルギー」「地球」領域の単元テストで技能、知識・理解の観点の平均通過率	80%	85.8%	一人一実験を大切に、体感したことを科学的用語を用いて書き、説明する活動を続けたことにより成果が上がってきた。	「物質」「エネルギー」「地球」領域の単元テストで技能、知識・理解の観点の平均通過率	85%	86.8%	目標をおおむね達成した。取組を継続するとともに、実験した内容をフラッシュカードなどで繰り返し振り返ることで、学力の定着を図っていく。	「物質」「エネルギー」「地球」領域の単元テストで技能、知識・理解の観点の平均通過率	90%	73.8%